



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

95.12.5 No.4306



千葉運転区支部 不屈の闘志でスト貫徹 自信は大きい 明日の闘へ

千葉運転区支部は、一一・二八(一)・二七二時間ストライキを支部組合員一丸となつて闘いぬき貫徹した。

二八日の一時五三分より全支部の先陣を切りストライキに突入した。その後、全組合員が動労千葉総決起集会に参加し、四八〇名の仲間とともに集会の大成功をかちとり、二九日・三〇日は、全組合員がストライキに突入。

二九日には、第一八回乗務員分科定期総会。三〇日は、第一九回支部定期大会が全組合員の参加のもと盛大に開催された。

大会は、椿支部長の「成田運転区廃止のときもそうだが動労千葉の排除のみを目的とした帰る場所を無くすという攻撃は断じて許すことはできない、千葉運転区支部は、つねに各支部の先頭で闘いぬく」という力強い決意を語り、来賓の中野委員長からは「大失業時代に労働者がバラバラにされている中、団結をとりもどす先駆けの闘いである」との闘争の意義が訴えられた。勝浦支部よりかけつけた岩瀬前支部長より、「八名が勝浦からきました。勝浦運転区廃止という帰るところをなくされた怒りを胸に地労委闘争等ガンバっていきますのでよろしく」との力強い挨拶をうけた。

立ち上がり送り込み時のイヤガラセ、スト破りの呼び出しを拒否する国労組合員に対する業務指示、JR総連・鉄産労組合

員のスト破り(鉄産労組合員などは自らスト破りを買って出る)等のスト妨害をはねのけ不屈の闘志でストライキを闘い抜いた自信は大きい。この闘いをバネに、明日からの闘いに突き進もう!

七二時間ストライキを貫徹!

京葉支部は、一一・二八(一)・二七二時間の七二時間ストライキを、京葉運輸区の運転士、京葉電車区の検修、そして京葉線の店舗から全組合員が決起して、今次、勝浦運転区廃止攻撃粉碎! 強制配転者の原職復帰を目指す闘いを打ち抜いた。

京葉支部は、この闘争中、津田沼支部と行動を共にし、二八日は、同日千葉市民会館で開催されたスト総決起集会に参加し、



闘いにつく安西新執行体制確立

三〇日には、弁天町会館で開催された第八回定期大会において、安西新執行体制を満場一致で選出、新役員を代表してあいし、新たな闘いへ進撃しよう。

解雇撤回闘争の状況を認識!

二九日は、東部公民館において、津田沼支部・京葉支部合同で、拠点でのスト突入集会を両支部の全組合員を結集して開催。高石執行委員が、解雇撤回闘争の経過と現状、そして闘いの展開について基調を提起、集まった組合員は、全員が原職奪還に向けた闘いへの決意を改めて確認するものとなった。

その後、京葉支部としては、翌日の第八回定期大会の準備などを行い、乗務員関係は「一二組織拡大が「JR結託体制」に与えた衝撃は図り知れない。また店舗廃止に伴い幕張支部へ三名、木更津支部へ二名の組合員が移ることとなった。われわれは、共に心をひとつにして闘いにつく安西新執行体制確立

千葉支社の、聖域にクサビ打ちこむ

肉の中を突き進め

さつに起つた安西新支部長は、「今までの政府・運輸省、JR当局・JR総連の体制に確かな亀裂が生じるなど、明らかに状況は分割・民営化一〇年目を前にして一変するなど、JRをめぐる情勢は揺れ動いている。これはわれわれの闘いが切り拓いてきた情勢だ。さらに団結を強化して闘い抜こう」と力強く訴えた。

闘いの中で組織拡大を實現!

一大拠点となる京葉支部の存在

支部は「一二月ダイヤ改」強行での、勝浦支部からの運転士三名、木更津支部からの検修一名を加え、動労千葉の一大拠点支部となった。